

*****【2010/12/4号】*****

■□.....

.....エース365 FXディーラー プレミアムレポート.....

『外国為替投資戦略』

松田トラスト&インベストメント株式会社代表取締役 松田 哲

■□.....

□

■ トレンドは、引き続き、『ドル安円高トレンド』

.....

ドル／円に関しての基本的な考え方に変化はありません。

ドル／円は、80円台から目先反発して、84円台にまで上昇しました。

本日（12月3日）の東京市場午前中の値動きでは、83円台で推移しています。

ドル／円の84円台には上値抵抗があったのですが、

『北朝鮮が、米韓の合同軍事演習に対して、何かするのではないか？』

といった懸念が「円売り材料」となり、結局、84円台に乗せました。

北朝鮮が、何かするにしても、この米韓の合同軍事演習の最中に、何かことを起こすのではなく、米軍が、いったん現地を離れてからだろう、と考えていましたが、とりあえず、何も起こらずに、米韓の合同軍事演習が終わりました。

『米韓の合同軍事演習による朝鮮半島の軍事的緊張』を材料に、「ドル買い円売り」気味に動いたのですから、何も起こらずに、演習が終わったので、ドル／円の上昇

圧力は弱まった、と考えています。

本日（12月3日）は、ニューヨーク市場で、米国失業率（雇用統計）の発表がありますから、東京市場、ロンドン市場は、大きな値動きにならずに、米国経済指標（雇用統計）の発表待ちになるのだろう、と考えます。

+++++

●添付の「ドル／円（USD/JPY）日足チャート」
（2010Dec03-USDJPY-Daily）をご覧ください。

※180本足（＝180日）のチャートです。

→ <http://www.acefx.jp/images/report/101203-1.GIF>

【緑の破線】が現在のレジスタンス・ラインです。

このチャートから読み取れることは、『今年の4月頃から11月に至るまで、ドル／円は、レジスタンス・ライン【緑の破線（太線）】の傾きのスピードで、（＝一定のスピードで、）下落してきた』と言えます。

今年の4月頃から11月ころまでですから、『6カ月以上にわたり（7カ月もの間）、レジスタンス・ラインに従い、一定のスピードで下落した』ということです。

直近のところでは、レジスタンス・ライン【緑の破線（太線）】を上を抜けたので、その時点で、目先の「買いシグナル」を発した、と考えます。

ドル／円の日足チャートを見ると、9月15日の大陽線（大上昇を示すローソク足）が目立ちます。

9月15日の大陽線は、日銀の『ドル買い円売り介入』による『特殊な値動き』です。

9月15日の介入直前のドル／円安値は、82円台後半（82.86レベル）でした。

9月15日は、日銀が、東京市場、ロンドン市場、ニューヨーク市場と、それぞれの市場で、断続的に『ドル買い円売り介入』を実施したことで、ドル／円は、85円台後半にまで上昇しました。

介入は、『不自然な大陽線（不自然な大上昇を表すローソク足）』です。

介入が実施された直後は、85.94まで上昇しましたが、その後、さらなる介入が実施されなかったため、結局、ドル／円は、【ジリ安傾向】になりました。

つまり、『ドル／円は、介入したにもかかわらず、介入直後の高値から5円以上下落した』ということです。

目先の現在は、80円前半から84円台にまで反発上昇を見ましたが、その上昇の過程で、上値は、まず、「9月15日の介入」前の安値82.86が意識されました。

つまり、82.86アラウンドが、弱いレジスタンス・レベル（弱い抵抗水準）でした。

しかし、その水準（82.86アラウンド）は、すでに、上にブレイクされた、ということです。

この弱いレジスタンス・レベル（82.86）を上を抜けても、「9月15日の介入」が実施された後で、上に抜けることのできなかつた85.94が意識されることとなります。

つまり、『86円台が、強いレジスタンス・レベル（強い抵抗水準）になる』ということです。

※今のところ、84円台で上値が重い雰囲気、強いレジスタンス・レベル（強い抵抗水準）85.94は、はるかに遠い印象ですが・・・。

※個人的には、大局では、『ドル安円高トレンド』に変化が無い、と考えています。

+++++

●添付の「ドル／円（USD/JPY）週足チャート」
（2010Dec03-USDJPY-Weekly）をご覧ください。

※300本足（＝300週）のチャートです。

→ <http://www.acefx.jp/images/report/101203-2.GIF>

ドル／円のトレンドは、引き続き、『ドル安円高トレンド』で、変わらずだ、と判断しています。

現在のレジスタンス・ラインを【緑の破線】で示しています。

ドル／円は、この線（レジスタンス・ライン【緑の破線】）の傾きに従って、一定のスピードで下落を続けている、と断定できます。

※【緑の破線（細線）】は、【緑の破線】の平行線です。

ドル／円の週足チャートを見るならば、今回のドル／円下落の起点は、「2007年6月の高値124円台」である、と判断できます。

ドル／円は、2007年6月の高値124円台から、3年半にわたり、この線（レジスタンス・ライン）の傾きに従って、一定のスピードで下落を続けている、と断定できます。

また、『その傾向（トレンド）が現在も持続している』と、現時点では断定できます。

現時点で、目先の反発上昇をしていますが、今のところ、反転の兆し（＝トレンド転換を示唆するシグナル）とは言えません。

反転の兆しと言うには、レジスタンス・ライン【緑の破線】を上を抜ける必要を感じます。

※気を付けなければいけないのは、このレジスタンス・ライン【緑の破線】を上を抜ける場合には、それまでに、大きく相場が動いている、ということです。

つまり、トレンド転換が起こる場合は、結果的に、事後的に、時間が経過してから、わかるということです。

それを踏まえて、相場に対峙する必要があることを、理解してください。

上述を踏まえて、引き続き、考え方は変わりません。

大局で（トレンドで）戦うならば、『ドル／円の買い』はセオリーに反する、と考えます。

ドル／円を取引するならば、どこかで、『ドル売り円買い』のポジションを取るべき、と考えます。

しかしながら、80 円台から 84 円台程度の反発（上昇）があっても、85 円より下のこの水準で、「売り持ち」にするのは、精神的に苦しいところでしょう。

ご覧の通りに、多少の反発があっても、現在の水準は、80.00（歴史的な安値は、79.75）に、あとわずかといった水準です。

この水準を売るのは、勇気がいることでしょう。

しかし、それでも、持つならば、ポジションを小さくして、負けても良いくらいの覚悟で、『ドル売り円買い』と考えます。

+++++

●添付の「ドル／円（USD/JPY）月足チャート」
（2010Dec03-USDJPY-Monthly）をご覧ください。

※300 本足（=300 月）のチャートです

→ <http://www.acefx.jp/images/report/101203-3.GIF>

10 月下旬から 11 月初旬の相場では、すでに、何度も 80 円台を見えています。

そして、11 月初旬のドル／円安値は、80 円台前半（80.20-30 水準）です。

ドル／円の歴史的目安値は、1995年に付けた79.75ですから、その歴史的目安値にあと50銭程度に迫ったこととなります。

いずれ、80.00を割り込むことになる、と、引き続き考えていますが、80.00は、心理的な抵抗になっており、80.00を割り込むには、まだ、少し時間がかかるのかも知れません。

80.00が、歴史的にも、心理的にも、大きな節目なので、簡単に突き抜けることは難しいのかも知れません。

しかし、俯瞰するならば、ドル／円が、近日中に80.00を割り込んでも、全く不思議ではない、と考えています。

※目先は反発していますから、実際のところは、今日（あるいは、今週中）に、70円台を見ることは無いのですが、いつ何時、70円台があっても不思議ではない状況が続いている、と考えます。

ドル／円の月足チャートを見るならば、『すでに、ターゲットであった80.00（79.75）を達成した』と判断します。

『まだ、80.00に届いていないではないか？』とか、『79.75の新値を更新していないではないか？』といった意見は、当然、出るだろう、と思います。

しかし、相場を客観的に見るならば、80円台前半をすでに付けているのですから、80.00（79.75）まで1円もありません。

1円程度は、誤差の内です。（すでに誤差は、50銭程度に過ぎません）

『十分に、ターゲットを達成した、と判断して良い』と考えます。

上述の通りに、『すでにターゲットを達成した、と判断して良い』と考えますが、まだ、大きな流れでは、「ドル安円高トレンド」が持続していると判断しています。

まだ、反転の兆しが無い、トレンド転換のシグナルは、まだ無い、と考えます。

- ・本サービスの最低取引単位（1枚）は1万通貨または10万通貨単位（※1）です。売買手数料は、1枚当り片道税込210円～1,050円（日計り決済時105円～630円）、預託していただく証拠金の額は、1枚あたり取引金額（想定元本）の2%以上で、通貨ペアの種類により決まります。
- ・実際の取引金額は、証拠金の額に比して大きいため、少額の資金で大きなポジションを保有することが可能ですが、その損失の額が預託していただいた証拠金額を上回る可能性があります。
- ・証拠金に対する取引金額の比率は50倍以下です。また、日々の為替レートや証拠金額の変更等で異なります。
- ・ロスカットルールは、お客様の資産の損失拡大を防ぐためのルールですが、必ずしもお客様の損失を限定するものではありません。各国の政治、経済状況の変化及びそれに関連する金融市場の変化、金利相場、経済指標の数値の変動等により、急激な相場変動が起こった場合、預託した証拠金の損失、若しくは預託した証拠金額を上回る損失となる可能性があります。
- ・当社が提示する各通貨ペアには売付けと買付けに価格差があり、またスワップポイントには支払いと受け取りがあります。
- ・スワップポイントは、各国の信用状況や金利情勢等により日々変動し、取引対象である通貨の金利変動により受け取りから支払いに転じることがあります。
- ・本サービスは、お客様から預託を受けた証拠金が当社に滞留する場合には、お客様の資産を安全に確保するため、三井住友銀行の信託保全サービス「クリアリングトラスト」を実施しておりますが、法令上要求される区分管理必要額算出日と追加信託期限に時間差等があることから、いかなる状況でも必ずお客様からお預りした証拠金等が全額返還されることを保証するものではありません。

上記リスクは、本サービスにおける主なリスクについて記載したのですが、これがすべてとは限りません。

ご契約の際は契約締結前交付書面を十分に熟読の上、リスクや取引の仕組み等の内容をよくご理解いただき、ご自身の判断と責任のうえお申込みください。

（※1）ランド／円、香港ドル／円、スウェーデン・クローナ／円、ノルウェー・クローネ／円の取引単位は10万通貨、それ以外の通貨ペアは1万通貨単位です。

お客さまのご相談連絡先：当社本社内／コンプライアンス部（電話：03-5485-4161）、若しくは証券・金融商品あっせん相談センター（電話：0120-64-5005）にお願いいたします。

金融商品取引業者：関東財務局長（金商）第251号

（社）金融先物取引業協会会員（会員番号1307）

(社) 日本商品投資販売業協会会員

取引所為替証拠金取引「エース 365」(商標登録出願中)は、
エース取引株式会社のサービス名称です。

・お客様の個人情報は、当社の個人情報保護ポリシーに基づき、適切に管理させていただきます。

個人情報保護ポリシー: <http://www.fx-365.jp/privacy.html>

・電子メールの特性上、送信過程で内容欠落、送信遅延、ウィルスの混入その他の不都合が生じることがございます。これらにつきましてエース取引株式会社は責を負いかねますのでご了承下さい。また、エース取引株式会社は本メールの送信を監視する権限を持っています。

・当社に関するお問い合わせは下記URLよりお願いします。

<http://www.acekoeki.co.jp/contact/>
